

【評価の目安】

A：目標を上回っている。

B：概ね目標に達している。

C：目標に達していない。

D：目標を大きく下回り、著しく低い実績である。

学番

11

新潟翠江高等学校

令和3年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告			
学校運営方針	1 単位修得の支援体制の整備と具体化 ・基礎学力の定着、出席率・修得率の向上、定通併修制度の充実 2 健康で、豊かな感性や倫理観、規範意識を育む教育の充実と具体化 ・自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践 3 キャリア教育の充実と具体化 ・社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成 ・主体的な進路設計を伴った、将来の自立を促す教育の充実 ・特別支援教育と連携した進路指導の推進 4 学校における働き方改革 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に従い効率的な業務管理の実現 ・時間外勤務時間1か月45時間以内、1年間360時間以内を目標とする		
昨年度の成果と課題	令和3年度の重点目標	具体的目標	
[成果] ・令和3年1月に実施した生徒意識アンケート結果では、「本校に入学して良かった」と感じている生徒は95.7%と、前年比0.8ポイント増加した。また、「本校は楽しいと感じることが多い」と答えた生徒は88.7%と0.6ポイント増加した。 ・保護者アンケートでは、「本校は教育方針や特色を積極的に公開し宣伝している」と回答した保護者は82.3%、「単位制による定時制の特色を保護者は理解している」と回答した保護者は91.9%といずれも前年を上回った。その他にも、「基本的生活習慣の定着」、「生徒相談体制」、「職業意識の育成」、「校内の清掃状況」はいずれも90%以上の保護者から良い評価を得た。 [課題] ・生徒アンケートを通じて「分かりやすい授業」、「安心できる学習環境の整備」、「基本的生活習慣やマナーの指導」について、いずれも8割以上の生徒が肯定的に評価しているものの前年と比較しポイントが減少したことから、引き続き改善を目指したい。 ・特別支援教育では、近年特別な支援を必要とする	・基本的生活習慣確立を目指し、生徒と教員間の信頼関係作りと問題行動防止のために生徒指導部と各年次との連携を密にする。 ・関係諸機関との連携を通して、安全教育に配慮する。 ・生徒会、クラブ活動、ボランティア活動等を通じて学校生活を豊かにする。 ・多様な生徒を理解し支援するために、全職員が教育相談に関する知識と技術を学び、実践する。 ・特別支援が必要な生徒の指導、特に就労支援の充実を図る。 ・人権教育、同和教育を推進する。	・生徒指導部と各年次が連携し、注意喚起と情報共有を図り、事件事故の未然防止に努める。 ・校内外巡視や立番で生徒への声かけを実施する。 ・挨拶励行や身だしなみを正し、規律ある学校生活を築く。 ・交通安全指導を行う。 ・クラブ活動の活性化やボランティア活動を推進する。 ・スクールカウンセラー等と連携して、助言を得ながら職員研修の充実を図る。 ・関係機関と連携を図り、個に応じて支援を検討する。 ・教育活動全体を通して自己理解・他者理解を深め、人権意識を培う。	
	・キャリア形成に必要な意欲、態度を育てる。 ・郷土愛に根ざした、地域の特色を生かした活動や体験活動等を通して生徒の自尊感情や自己肯定感を高める工夫をする。	・キャリアガイダンス部が中核となり、進路達成に努める。 ・キャリア教育推進委員会が中心となり生徒の就労を計画的かつ継続的に支援する。 ・就業体験やインターンシップなどの活動を通し、社会人として必要な諸能力を育成し、生徒が主体的な活動を支援する。 ・学校設定科目「環境と植物」をより充実した形で実践する。	・教員研修（互見授業の実践、中高連携の促進など）を充実させる。 ・学校設定科目等を通して、生徒の学習への興味・関心を高める。
	・丁寧な学習指導や体験的な学習活動を通して基礎学力定着と学習意欲を向上させる。		

<p>生徒が増加傾向にあり、より効果的な指導方法について特別支援学校をはじめ、関係機関との連携した取り組みが急務である。</p> <p>・生徒指導では、SNSに関わるトラブルが多発していることから学校での指導はもとより保護者と連携した取り組みが必要である。</p>				
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
基本的な生活習慣の確立	挨拶や身だしなみを正し、規律ある学校生活を築く（生徒指導部生活指導係）	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員間の信頼関係を築き、問題行動の未然防止に努める。スマートフォンやSNSの適切な利用方法を学び、法令を遵守するように指導する。 「MY LIFE」（生徒指導部作成）を発行して、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、望ましい学校生活を確立させる。 	B	A
	交通安全指導（生徒指導部交通係）	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や県警と連携し、事故防止のための講話や実技指導を行うなど、事故を未然に防止する。 	A	
	基本的な生活習慣をしっかりと身につけ、仲間と共に学ぶ楽しさを味わい、基礎学力の充実を図る（1年次）	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップにより出来ることを増やし、学校生活の楽しさや自己肯定感を向上させる。また、聴く力を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 	B	
	学校行事を通して、規律を身に付けさせるとともに社会性を習得させる（2年次）	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立させ、現代の社会に生きる市民として必要不可欠なリテラシーの向上とコミュニケーション能力の習得を目指す。 	B	
	多様な生徒への支援	生徒理解・支援のために教職員のレベルアップを図り、特別支援教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育推進委員会が中心となり、個別のニーズに応じた職員研修を実施する。（特別支援教育推進委員会） 	B
<ul style="list-style-type: none"> より深い支援を要する生徒に対して、外部機関と連携し、よりよい支援のあり方を模索する。（生徒指導部教育相談係・特別支援教育推進委員会） 			B	
<ul style="list-style-type: none"> 校内ニーズの把握と支援策検討のため、SCと連携し、よりよい支援のあり方を模索する。（生徒指導部教育相談係） 			B	
キャリア形成の意欲、態度を育成	生徒の進路意識の啓発（キャリアガイダンス部、3・4年次）	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンス、講演会、企業見学、インターンシップ等の実施や「進路だより」を発行し、自己を見つめさせ、進路意識の高揚を図る。 	A	A
	主体的な進路設計ができ、社会人として自立できる生徒の育成と、進学や就職の支援（3・4年次）	<ul style="list-style-type: none"> 個別の進路指導を充実させ、生徒の適性や希望を把握する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 個別面談や職場見学を実施し、希望に添った進路実現を目指す。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援を必要とする生徒に対して、関係機関と連携し、適切な進路実現を目指す。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 校外模試を活用し、結果を分析して適切な志望校を選択させる。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> 進学説明会やオープンキャンパス等に参加させ、進路実現を目指す。 	A			
生徒の自尊感情や自己肯定感の育成	生徒会行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活を活性化（生徒指導部生徒会係）	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部を中心に、学校行事の企画運営や学校生活の向上に努める。また、学校行事を通じて所属感や連帯感を養い、協力してよりよい学校生活を築く態度を育てる。 	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> 専門委員会の活動を明確にし、活性化を図る。 部活動を充実させ、心身の健全な発達を図る。 生徒会役員、執行部の人員を確保し、次年度以降も継続的に活動できるようにする。 	B	

P T A 活 動の活 性 化	保護者がP T A 活動に興味・関 心を持ち、行事 や活動に参加し やすい環境をつ くる。(P T A 委員会)	・学校行事の様子や進路、P T A活動など保護者への情報提供を充実させる。	A	A	A
		・情報の提供や交換の場として、保護者の集いやしゃべり場を実施する。また、保護者同士の親睦を深めるため翠江祭でのバザー等各種イベントを企画する。	A		
基礎学力 定着、学習 意欲向上	身近な教材を工 夫し、年間指導 内容を蓄積する (教務)	・シラバスをもとにわかりやすい補助教材や体験的な学習の工夫を進め年間指導計画の中に位置づける。	B	B	
		・授業時数を確実に確保する。			
	学習意欲の向上 を図る。(国語)	・生徒の学習意欲を喚起するような取り組みやすい教材プリントを工夫する。	B	B	
		・生徒が授業の中で、自らの考えや意見を正しく表現する能力を培うための発問の仕方や授業展開を工夫する。	B		
	基礎学力の定着 及び向上を図 る。(地歴公民)	・生徒の理解力に合わせた補助プリントや資料、視聴覚教材などを利用して、わかりやすい授業を目指す。	B	B	
		・生徒の実態に合わせて授業内容や実践方法を工夫し、興味・関心を引き出し、印象に残る授業を展開する。	B		
	基礎学力の定着 を図り、数学的 活動を通して、 数学への理解を 深める。(数学)	・習熟度別少人数授業の利点を生かし、個々の生徒に適した教材を提供することで、生徒に学習の達成感を高める丁寧な学習指導を実践する。	B	B	
	自ら積極的に学 習に取り組む態 度を培う。基礎 ・基本の定着を 図る。(理科)	・生徒の理解度に合わせた授業プリントなど、わかりやすい補助教材などを用いて、基礎学力の定着を図る。	B	B	
		・実験や演習実験、野外実習など、体験的学習の工夫を図ることで、生徒の興味関心を引き出す。	B		
	体力の増進とス ポーツに必要な 運動能力の伸張 を図る。また、 スポーツを通じ て、公正な態度 を養う。(保健 体育)	・生徒の体力、能力を踏まえ個に応じた指導を行う。	B	B	B
基礎的な技術の 習得と、自己表 現の力を養う。 (芸術)	・各運動やスポーツを通して、最後まで諦めずやり遂げる心を身に付ける。				
	・豊富な感性を育むため、鑑賞の内容を充実させ、自己表現の場として校内での作品展示、発表を行う。				
基礎学力の定着 を図る(英語)	「翠江生の英単語850」をもとに、月1回単語テストを行う中で、生徒が苦手意識を克服し、やる気を引き出し、達成感を得られるようにする。	B	B		
生活の自立に向 けた基本的な知 識と技術の定着 を図る。(家庭)	・学ぶことに興味関心が持てるよう、繰り返し粘り強い指導をする。	B	B		
情報活用能力の 育成を図る。 (情報)	・目標を持った学習活動にするため、実習や検定を取り入れる。				
	・パソコンや携帯端末機器を利用する際の情報モラルを習得させ、ネットマナーを遵守する態度を身に付けさせる。	B	B		
	・社会で広く使われている基本的なソフトウェア(ワード、エクセル、パワーポイント)を活用する能力を身に付け、情報を処理する能力を高める。	B			
ビジネスの基礎 知識を習得させ る。会社でのマ ナーや事務処理 を理解させる。 (商業)	・企業のビジネスにおける専門的知識を学ばせる。	B	B		
	・生徒の実態に応じたきめ細かい指導を行う。				
	・会社実務の理解を促すため、有効な教材を活用する。				A

